［認知症対応型共同生活介護用］

1．　調 査 報 告 概 要 表

作成日　平成　　年　　月　　日

【評価実施概要】

事業所番号	2770107411
法人名	有限会社イークォル
事業所名	グループホーム和の家
所在地	大阪府堺市北区東上野芝町二丁２８７ （電　話）072-255-7618

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町１７９７
訪問調査日	平成22年1月26日

【情報提供票より】（平成21年12月10日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平)成17年　2月　1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	20 人	常勤　14人，　非常勤　6人，　常勤換算　18.5人	

（２）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート　造り
	2 階建ての 1階　～　2 階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	51,000　円		その他の経費（月額）	34,500　円
敷　金	有（　円）		(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	(有)（180,000　円） 無		有りの場合 償却の有無	(有)／無
食材料費	朝食	300　円	昼食	500　円
	夕食	500　円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

（４）利用者の概要（平成21年12月10日現在　）

利用者人数	18 名		男性　6 名	女性	12 名
要介護１	3名		要介護２	4名	
要介護３	7名		要介護４	3名	
要介護５	1名		要支援２	0名	
年齢	平均	85.2 歳	最低　70 歳	最高	99 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人大泉会　いずみクリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム和の家」は、ＪＲ阪和線「上野芝駅」から徒歩約７分の閑静な住宅地にある。周辺には仁徳天皇陵、いたすけ古墳、大仙公園等があり、四季の変化を身近に感じられる場所が多く、環境に恵まれている。特に、いたすけ古墳は、人に慣れたタヌキが棲んでいることもあり、利用者の日頃の散歩コースとして好評である。
『一人一人の意志を尊重し、よく理解して、安心と豊かな暮らしを地域とともに支えます』の理念のもと、全職員がその実践に向けて取り組んでいる。職員は担当制により、利用者個々の希望に応じた個別ケアに取り組んでいる。地域との交流にも積極的で、事業所内で手芸教室、カラオケ教室や「和喫茶（月１回）」を行い、地域住民とのかかわり方にも工夫が見られる。また、毎月発行している「和の家便り」は家族版と地域版の２種類を作成するなど、職員の熱意の跡が伺える。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回評価において主に運営推進会議を活かした取組み、鍵をかけないケアの実践、災害対策などが改善課題として提起された。課題によっては未だ十分な改善に向けた取組みが行なわれていない。全職員で十分な討議を行い、知恵を出し合い、工夫をしながら、改善に向けて積極的な取り組みが求められる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	管理者をはじめ各職員は自己評価や外部評価に対する理解はあるものの、今回の自己評価は、全職員が共同して取り組み、作成されたものとは言い難い。次回を期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は２ヶ月に１度開催し、事業所内行事、日々の暮らしの様子などの報告を行なっている。利用者の家族にも往復ハガキで本会議への参加を呼びかけている。討議内容は職員に伝達され、サービスの向上に向けて取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	事業所内に意見箱を設置しているほか、家族との面会時や運営推進会議への出席を呼びかける案内時に往復ハガキを利用するなど、意見や苦情を汲み取ろうと積極的な取組みが見られる。家族からの声は運営推進会議での話題になったり、「和の家便り」にも掲載している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地元の自治会、老人会に加入している。月1回老人会から講師役を招いてカラオケ教室を行なったり、地域の公民館で行なわれる将棋大会やカラオケ大会に出向いたりしている。また、職員による手芸教室や和喫茶（毎月1回）を事業所内で開催し、地域の人々との交流に積極的な取組みがみられる。さらに、非常時の協力体制について地域へのはたらきかけを行なっている。

2．　評　価　結　果　（詳　細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人一人の意志を尊重し、よく理解して、安心と豊かな暮らしを地域とともに支えます」が当事業所の運営理念である。これは自らの独自理念として、開設当初から掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関ホールや各フロアの事務所内に掲示しており、家族や地域に配布している「和の家便り」にも毎月掲載し、内外に対して発信し、理念の実践に向けての意欲が感じられる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の自治会、老人会に加入している。月1回老人会から講師役を招いてカラオケ教室を行なったり、地域の公民館で行なわれる将棋大会やカラオケ大会に出向いたりしている。また、職員による手芸教室や和喫茶（毎月1回）を事業所内で開催し、地域の人々との交流に積極的な取組みがみられる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ各職員は自己評価や外部評価に対する理解はあるものの、今回の自己評価は全職員で共同して取り組み作成したものではなかった。さらに、外部評価での改善課題に対しての改善に向けた具体的な取組みが十分ではない。	○	自己評価は全職員の意見が反映されることが必要であり、また外部評価で指摘された改善課題については、改善に向けた積極的な取組みが行なわれる必要がある。今後の事業所の対応に期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は２ヶ月に１度開催し、事業所内行事、日々の暮らしの様子などの報告を行ない、会議での意見等は全職員に伝えられ、サービス向上に活かしている。参加の呼びかけは、利用者の家族（往復ハガキ）や地域住民に対して行なわれているものの、自治会など地域からの参加者が少なく、今後の対応が望まれる。	○	より地域に密着したサービスの向上を目指す上で、地域住民の運営推進会議への積極的な参加が不可欠である。日頃から地域住民に本会議の意義を説明し、また本会議の運営方法に工夫を施すなど、地域の方々にすすんで会議に参加してもらえるよう、事業所側の積極的な取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者（地域福祉課・介護保険課・生活援護課）や地域包括支援センターへ連絡や報告を行なうなど、常に連携を心掛け、サービスの質の向上に向けて取組みを行なっている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時に日頃の様子を報告するほか、暮らしぶりや健康状態に変化があれば電話、ＦＡＸなどで状況の報告を行なっている。また、家族宛に月１回「和の家便り」を発行し、利用者の写真を添えて事業所での様子を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置しているほか、家族との面会時や運営推進会議への出席を呼びかける案内時に往復ハガキを利用するなど、意見や苦情を汲み取ろうと積極的な取組みが見られる。家族からの声は運営推進会議での話題になったり、「和の家便り」で掲載している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できる限り固定した馴染みの職員で支援が継続できるよう努力している。新人の着任時は、利用者とのコミュニケーションに多くの時間を取るなど、馴染みの関係づくりに努めている。その際、利用者の様子を見ながら場合によっては、担当をはずすなどの対処をとることもある。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じての研修計画を作成していない。事業所内で勉強会を実施していたこともあったが、最近は研修の実施記録がない。	○	各職員の知識を深め、介護技術の向上を図る上で、研修は不可欠である。少なくとも年間の研修計画を立て、全職員が事業所内での内部研修のみならず、各自のレベルにあった外部研修を受講できる環境づくりに積極的に取り組むことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一区内に所在するいくつかのグループホームが持ち回りで、月１回のペースで実施している「グループホーム会議」に管理者が参加している。ここでは、運営面に係る様々な情報の交換やサービス向上に向けて積極的な取組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在体験利用は行っていないが、利用前の面談で聞き取った情報を基に食堂の座席を配慮したり、職員が横に付き添い積極的な関わりを持つことで、場の雰囲気に少しずつでも馴染みながら、安心した生活ができるように配慮している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	大工仕事を手伝ってもらったり、セーターの編み方を職員が教わったりしている。また、月一回、地域向けに開催している「和喫茶」では、来客者に接客する利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は担当制となっており、日々の利用者との触れ合いの中で一人ひとりの思いや希望を聞き取っている。聞き取った内容は職員用連絡帳に記入し、職員間で情報を共有している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、本人、家族等と話し合いを行っている。介護計画に基づいた実践記録を使用し「できた」「できていない」を○×形式で毎日記録している。家族には、面会時に相談している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は作成しているが、状態に変化がみられた場合には、連絡帳に記入し、職員に情報を伝達しているが、定期的に又は随時に見直した計画記録が充実していない。	○	今後は、職員だけでなく本人、家族を含めた話し合いを行うことで、介護計画書に意向を記載したり、介護の目標に期間を決めて取り組み、適切な介護計画の作成が望まれる。
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その日の職員体制にもよるが、利用者の希望に応じてパチンコに出かけたり、墓参りやお寺に参詣するなどその人らしい時間を過ごせるようにしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週１回、かかりつけ医と訪問看護師の往診があり、定期的な体調管理を行っている。かかりつけ医は本人及び家族の希望を尊重し、納得の得られた医師である。医師からの指示は、連絡帳と日誌に記入し、処方された薬の内容はスタッフルームに掲示し、職員に伝達している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでには重度な利用者が居られなかったため具体的な話し合いは行われていないが、看取りに関する指針を利用開始時に家族に説明し、同意書を取り交わしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に関する記録物はスタッフルームに保管し、個人情報の取り扱いに留意している。入浴時には身体をタオルで覆うなどの配慮をしている。呼び名については、家族の了解を得てその方の希望に応じた声かけを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活習慣やその時々の希望に沿った対応ができている。起床、就寝、食事時間も利用者のペースに合わせた配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材会社が献立を作成しているが、体調不良の場合は粥など食べやすい物を提供している。季節の行事として外食や出前を採り入れながら、食事の楽しみ方を工夫している。調理の下ごしらえを職員と一緒に行い、共に同じ食事をすることで、会話が弾み落ち着いた雰囲気となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	空調設備の完備した暖かく、明るい脱衣室と浴室で週２回、午前10時～12時と基本の曜日及び時間帯は決まっているが、利用者の健康状態や希望に合わせて適宜入浴の曜日や時間帯を変更することも可能としている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味、嗜好を聞いたり、日々の生活の中で知り得た情報を活かした支援を行っている。手芸教室、ホーム敷地内にある畑での野菜作りやカラオケなどが楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良い季節には、近くにある古墳に出没する狸を見に散歩に出かけている。一人ひとりの希望に合わせた買い物、パチンコなどの外出支援や、年２回全体の遠足行事として、大阪城、温泉、新喜劇、水族館などへの外出も実施している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関、各ユニット出入口は施錠している。ホームの近辺には車の通行量の多い通りや踏切があり、一人で外出した場合には、生命にかかわる事故の危険も十分に考えられるものの、鍵をかけずに支援する意識、努力が求められる。	○	残りの人生を豊かに過ごせるよう外に出たい理由、その人の世界を理解することで、施錠しなくてもよい具体的な介護方法が話し合われることを期待する。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年２回（５月、１１月）消防署の立会いの下で避難訓練を実施している。近隣住民に対しても非常時に協力を得られるよう日頃からの働きかけを行っている。しかしながら、職員は避難経路の確保に不安を感じており、事業所側の対応が必要である。	○	建物及び土地の構造上、屋外への安全な避難場所への避難経路の確保が十分でない。すべての利用者が安全に避難できるよう対策を図ることが急務である。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日記録し、摂取量の把握に努めている。メニューは外部委託により適切な栄養バランスとなっている。食事が合わない場合は、嗜好を確認した上で、代替物を用意している。また、体調に応じてゼリーやジュースを用意するなど、水分摂取量に気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はほとんど全員が居間で過ごされており、日当たりの良い明るい居間にはカレンダーや季節感溢れる貼り絵などが飾られている。また、レクリエーションなどで利用者が作った塗り絵や川柳などが掲示され、明るい雰囲気づくりが感じられる。また、庭には畑があり、利用者とともに旬の野菜づくりに取り組んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や調度品、趣味の品物が持ち込まれ、壁には家族の写真が飾られているなど、利用者が居心地よく過ごせるよう利用者本位の居室づくりがなされている。		

※ ▒ は、重点項目。